

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)

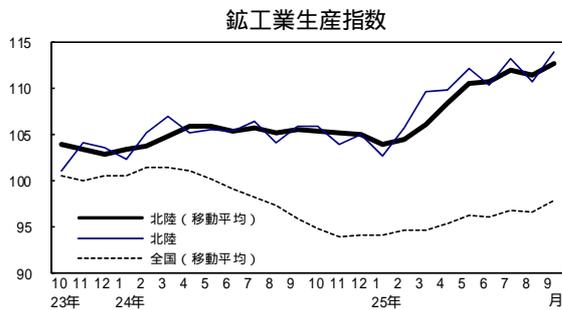
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 25 年 8 月)	今回 (平成 25 年 11 月)	
景況判断	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復している	
鉱工業生産	緩やかに増加	増加	
個人消費	持ち直しの動きに一服感	持ち直しの動き	
住宅建設	増加	大幅に増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

7～9月期には、電子部品・デバイスは、スマートフォン向け電子部品が増加したこと等から増加した。化学は、工場の修繕があったこと等から減少した。はん用・生産用・業務用機械は、金属加工機械の反動減があったこと等から減少した。繊維は、衣料品向け製品が減少したこと等から減少した。金属製品は、建築用金属製品が増加したこと等から増加した。



(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。
2. 全国及び北陸の大線は後方3か月移動平均。

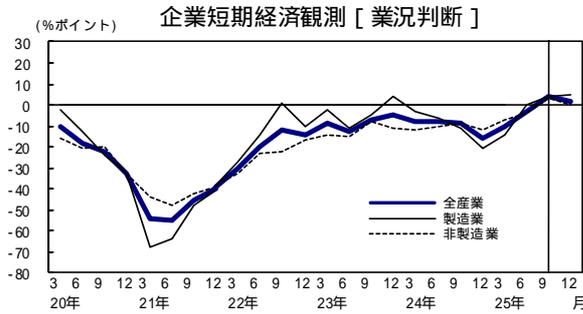
域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4～6 月期	7～9 月期	7月	8月	9月
電子部品・デバイス	20.8	0.2	9.4	11.1	1.1	4.6
化学	13.5	2.1	4.8	2.4	4.3	3.8
はん用・生産用・業務用機械	12.7	12.6	0.2	1.5	8.5	2.3
繊維	8.4	5.5	3.5	0.2	5.5	4.7
金属製品	6.0	4.6	0.8	4.4	1.5	3.9
鉱工業	100.0	4.5	1.7	2.6	2.1	2.9

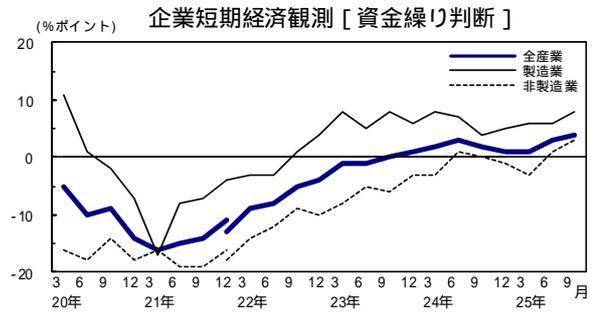
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7～9月期、9月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅に転じ、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

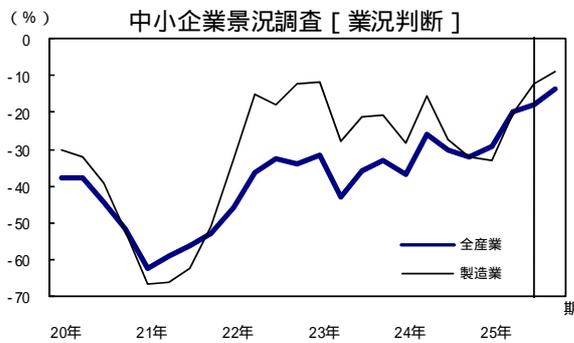
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年12月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。

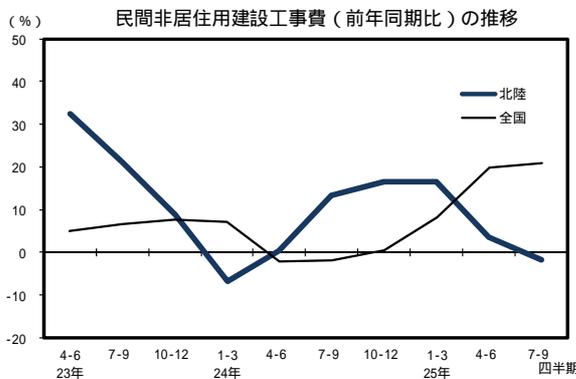


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「工事量の増加により受注時における過度な価格競争が緩和され、受注時の処理費が改善傾向にある(建設業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。



企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	24年度実績	25年度計画
全産業	9.9	0.4(0.3)
製造業	5.6	5.3(1.4)
非製造業	24.6	16.8 (4.2)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比0.1%減、8月は同0.5%増、9月は同0.6%増となった。

大型小売店販売額

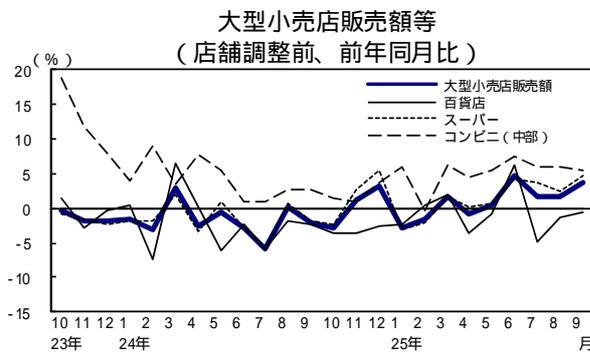
7月は、セールが6月に前倒しされたこと等により前年を下回った。8月は、下旬の気温が低かったこともあり、衣料品が振るわなかったこと等により前年を下回った。9月は、週末の天気があまり良くなかったこともあり、百貨店の来客数が減少したこと等から前年を下回った。

スーパーは、7月の気温が高かったことや9月の気温が低かったこともあり、季節商材の売行きが好調だったこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (10月) [家計動向関連 (現状)]

北陸地域の家計動向関連DIは、50.0となり前月に対し横ばいとなった。

「これまで低迷状態にある法人接待需要においては、過去10年で最高の業況にある大手建築業界からの利用が増加しているが、売上全体の数字を押し上げるには至っていない (高級レストラン)」など、「変わらない」とする回答が増加した。

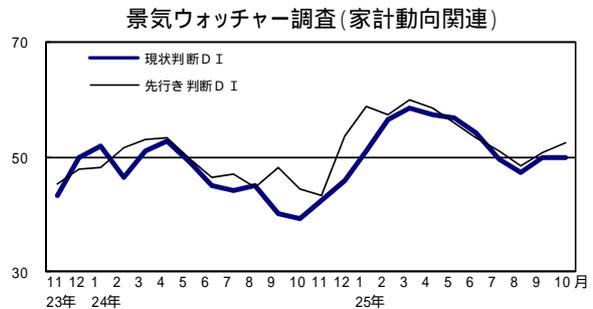
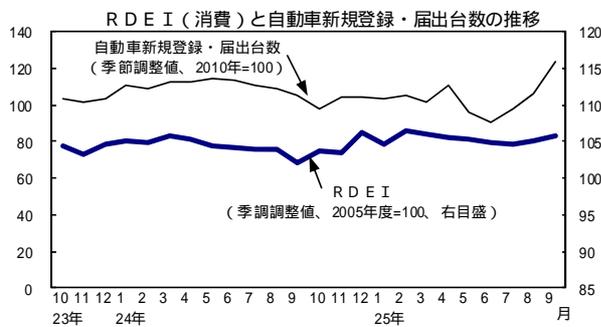


	25年7-9月	25年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.0	0.1	0.5	0.6
大型小売店(*2)	2.3	1.7	1.8	3.7
百貨店(*2)	2.5	4.8	1.3	0.5
スーパー(*2)	3.6	3.8	2.5	4.8
コンビニ(*2)	5.9	6.0	6.1	5.4
乗用車(*3)	0.2	11.1	4.7	17.8
(季節調整値)(*3)	9.7	7.4	8.5	17.0

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%) コンビニは中部

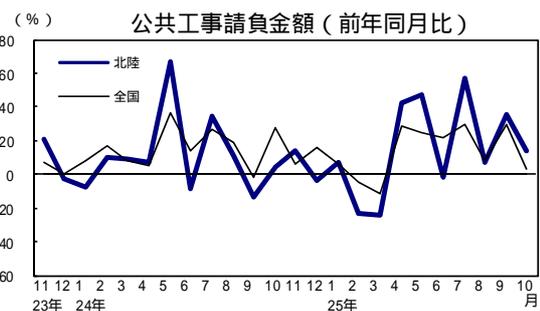
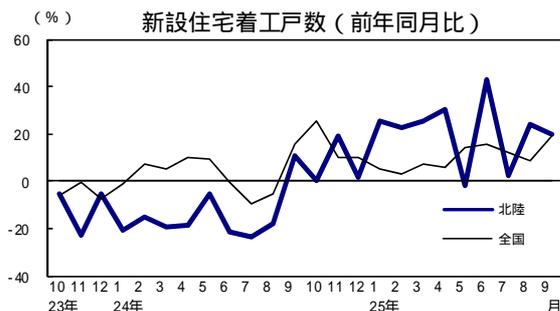
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、分譲が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は25年度累計で見ると前年度を上回っている。

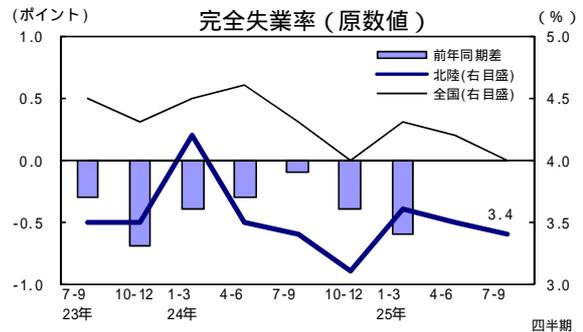
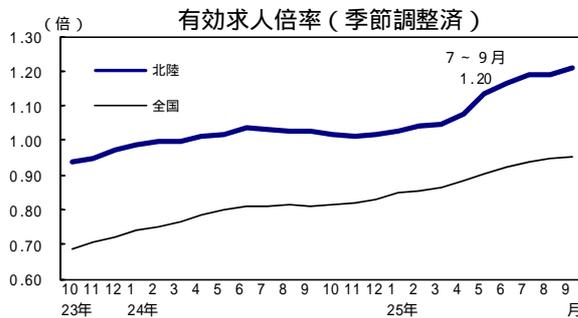


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]

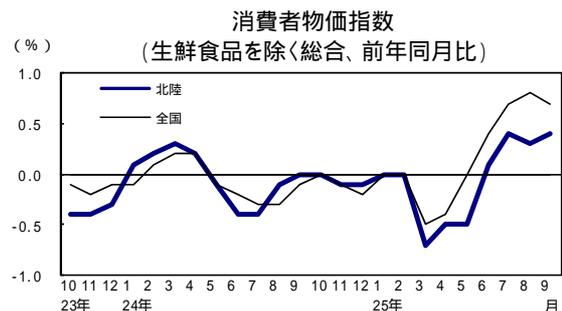
「新規求人数の伸びは順調であり、また、回復が遅れていた正社員の求人についても多少ではあるが増加してきている (職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年10-12月	25年1-3月	4-6月	7-9月	25年10月
倒産件数	103	81	81	67	23
(前年比)	47.1	6.9	3.8	18.3	42.5
負債総額	1,145	176	160	91	15
(前年比)	381.8	4.2	12.0	77.2	85.1



景気ウォッチャー調査 (10月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・新規取扱メーカーのスマートフォンが発売となったが、当店における取扱は月末からであったことにより、当該効果はまだ感じられていない。ただし、タブレット販売が好調であったため、新規の販売台数は安定している (通信会社)

<先行き>

・商品単価の上昇傾向に加え、新築に伴う家電一式の購入が増加していることより、今後2～3か月先の状況はやや良くなると予想する (家電量販店)

